歴史の道をゆく
the history of road
矢島街道 ③

①

③

②

⑤

④

道仏坂の旧道を上る

矢島城下を抜けた街道は、新町で国道108号を横切り、緩やかに右カーブして新所に向かう。国道との交差点の左手に、芭蕉句碑があり、その裏手に入った高台（通称・裸森）墓地の一角に「義烈良民の墓」が建っている。

街道に戻って少し進んだ右手に、中世・大井氏の重臣・根井氏が居館とした根井館跡がある。街道からは外れるが、ここより南西に1kmほどのところに、矢島氏の旧館だった根城館跡があり、跡地には矢越八幡神社の社殿が建っている。

新所集落の街道筋右手に、かつてイチイの木があり、この辺りを中心に「新所の地蔵市」が開かれて賑わったといわれる。イチイは最近になって切り倒され、民家の庭先に切株だけが残っている。

街道はその少し先で左手に分かれ、またすぐ右手の道に合流して郷内地区に進む。郷内集落の手前で道は左に分かれ、虚空蔵神社前で右折。間もなく国道108号のほぼ左手付近に沿って鳥海町に進む。鳥海町に入った国道は道仏坂を緩やかに上るが、往時の道仏坂はこの道筋ではなく、右手の山に分け入る「つづら折」の坂道だった。

今はほとんど通る人もいないと思われるこの山道をフーフーと上り詰めると、台地上に水田が広がって道筋はいったん消えるが、少し先から、台地の縁の杉林沿いに草と土の農道が現れる。これが矢島街道の道筋の名残だと地元の古老に聞いた。

農道はやがて大久保地区の墓地の脇を経てT字路にぶつかり右折。まもなく右手の枯れかかった松の木の下に、文化元年（1804）の線刻地蔵尊と慶応元年（1865）の疱瘡神碑が建っている。

民家前に残る矢島街道

大久保から先の街道は坂を下って鵜川を渡り、興屋～伏見へと向かう。この間、正確な道筋ははっきりしなくなっているという。伏見に下る手前で街道は国道108号バイパスの下をくぐり、旧国道に合流して右折。鳥海町役場の角を右折し、「赤渋の渡し」で直根川を渡り伏見沢地区に向かう形だった。

往時は今の国道108号の伏見橋付近から対岸の農協付近に舟で渡り、最初の民家である鈴木氏宅前を右折、坂を上って今の国道筋に出ていた。鈴木氏宅の住所は鳥海町上川内字舟場台。同氏のガレージに通じる細道がまさに旧・矢島街道の道筋だ。その先にも、旧道の一部が名残をとどめている。

国道に重なった街道は平根地区に進む。平根は矢島城下を出て最初の駅で、本陣や問屋が置かれた。旧本陣・村上家の往時の建物は残っていない。

道は平根の外れで国道から右に分かれ、また合流。楢ノ木平の手前ではいったん国道から左に分かれ、間もなく国道を横切って楢ノ木平集落内を抜け、国道に出る。小川地区で街道は国道から右に外れ、大坂～新沢平～青平と進む。往時の街道は、今の集落や集落間を結ぶ道より西の台地の裾近くを通っていたようだ。大坂集落西側の田んぼの畔道や台地沿いの山道などに、道筋の一部が残っている。

真室川への道をたどる

清水渕の付近の国道は橋が連続しているが、往時の街道は山側を迂回して本屋敷に入っていた。本屋敷で道は二手に分かれ、メインルートは分岐を右に進む。分かれてすぐの道筋右手に、義民・佐藤仁左衛門の屋敷跡があり、その先を左手に分かれた尾根道は、中仙道（現 羽後町）を通り西馬音内に向かう脇道だった。笹子地区の中心集落である「町」の旧道に進むと、左手に月山神社がある。出羽三山の月山ではなく、上笹子の東にある標高640m足らずの月山を祭った神社だ。「町」には笹子本陣が置かれ、参勤交代の矢島藩主の最初の宿だった。痕跡は残っていない。

「町」の南の外れ近く、左手の慈音寺脇を過ぎ、西久米に向かう。この間の道筋については諸説あるというが、おおむね旧国道のやや西側を通っていたようである。

西久米から旧国道108号は左手にカーブし、松ノ木峠を経て院内に抜ける。この道も、矢島街道の脇街道が前身だ。メーンルートは西久米の追分を直進。矢島領最南の集落だった切留を過ぎて長い山道に入り、甑峠越えで山形県の最上郡真室川町側に下る。切留の墓地の向かいの旧・大友氏宅は本陣だった。今は取り壊されて何もない。

甑峠付近のルートは今の林道とほぼ重なるらしいが、その前後は右や左にずれていたという。やがて道は前森山林道に重なり、真室川町の鏡沢地区で県道に出る。

この先の矢島街道（県道）は旧及位踏切を渡り、今の旧及位集落の外れで羽州街道と接続していた。

⑦

⑧

⑥

矢島街道

①旧道仏坂（矢島町坂ノ下）
郷内発電所を過ぎて急坂の道仏坂にかかる。旧矢島街道は現在の道仏坂に沿って右に上る道になっている。かつての街道は、幅1.5mほどの山道で農作業の人が通るだけである。

②疱瘡神碑と線刻地蔵尊（鳥海町下川内）
道路脇の7本ほどの松と杉の根元、松葉と杉葉に埋もれるようにしてあるので、注意しないと見過ごしてしまう。疱瘡神碑には、悪疫退散を願う「願望」の文字が刻まれている。

③赤渋の渡し（鳥海町伏見）
今は川も浅く川幅も広くはないが、江戸時代は水深もあり川幅も広かったので舟で渡っていた。川の両岸の地域には、舟着き場を示す「舟場台」の小字名が今も残る。

④民家前の旧矢島街道（鳥海町上川内）
「赤渋の渡し」を渡った街道は民家前（鈴木氏宅）を抜けていた。家の前には庚申塔があり、田んぼ道となった300mほどの街道が見渡せる。

⑤佐藤仁左衛門の屋敷跡（鳥海町下笹子）
延宝5年（1677）直訴により、無謀な再検地による年貢の取り立てから農民を救おうとした佐藤仁左衛門の屋敷があったところ。今は小公園のようになっていて、明治23年（1890）の碑が建てられている。

⑥間木の平の道標（鳥海町下笹子）
矢島街道のメーンルートは佐藤仁左衛門の屋敷跡を右に見て進むが、この道標のある脇道は本屋敷で左に入る。立石峠を越えて中仙道、西馬音内、湯沢へと至る街道であった。

⑦本陣だった旧大友家宅跡（鳥海町上笹子）
大友家は甑峠の登り口、矢島藩最南の集落切留にあった。ここは、矢島藩の殿様、生駒氏が参勤交代で江戸に上り下りするとき利用していた本陣であったが、今はなにも残っていない。

⑧甑峠の山道を辿る（鳥海町）
標高981mの甑山を越える甑峠。街道は山伏が利用したため山伏峠とも呼ばれた。この峠を越えて、山形県の真室川へと続いていた。